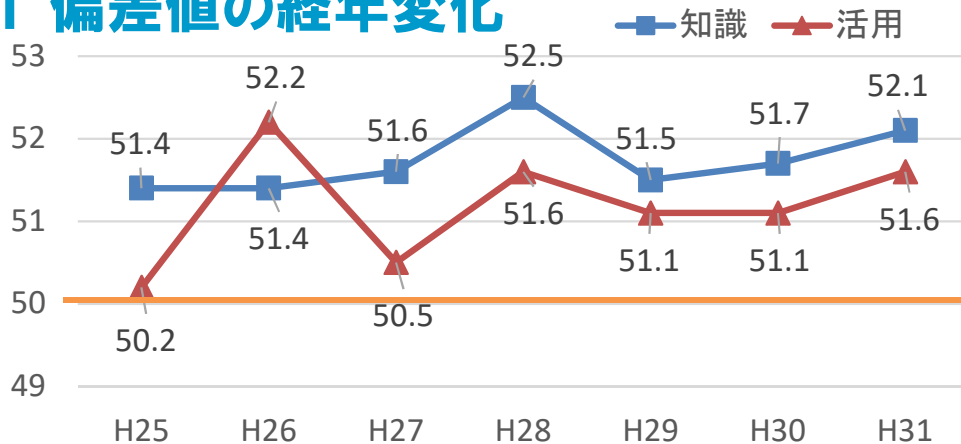


結果のポイント

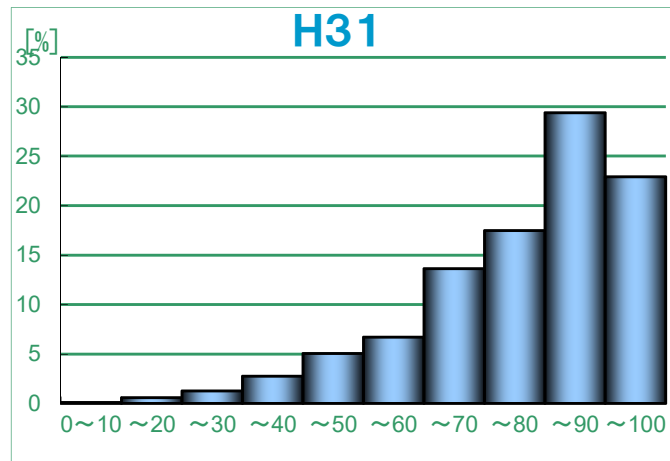
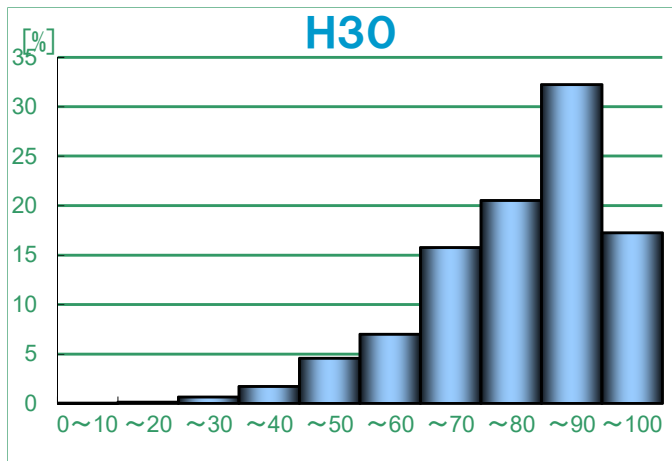
1 偏差値の経年変化



○知識(前年比0.4P)、活用(前年比0.5P)ともにH30年度より上回った。

▲知識に比べ、活用の偏差値が低い状況が続いている。

4 正答率度数分布の変化



2 領域別の結果

領域	正答率	目標値	偏差値
話すこと・聞くこと	83.4	76.7	50.4
書くこと	66.8	56.7	53.3
読むこと	73.4	71.4	50.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.0	73.3	51.6

○全ての領域で偏差値50を上回っており、「書くこと」は前年比+0.8P、「読むこと」は前年比+0.5Pであった。
 ▲「話すこと・聞くこと」は前年比-0.2Pで、達成率(目標値を超えた人数の割合)においても70%に達していない。

3 観点別の結果

観点	正答率	目標値	偏差値
話す・聞く能力	83.4	76.7	50.4
書く能力	67.4	57.7	53.2
読む能力	70.6	68.4	50.8
言語についての知識・理解・技能	80.5	72.6	51.8

○全ての観点において偏差値50を上回っている。

▲達成率では、特に「読む能力」で65%を下回っており、課題がある。

○低学力層の児童の割合が低い。
 ○前年に比べ、9割以上の正答率の人数が増加している。

□ 課題が見られた問題と指導の改善

1 正答率が低かった問題

大問5(3)(正答率42.4%・目標値55.0%)

段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る問題

- ▲中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えて文章を読む力が身に付いていない。

指導の改善

○文章の構成について確かめ、それぞれのまとまりや段落がどのような役割を果たしているかを考えるような学習を仕組む。

(例)筆者は自分の考えを分かりやすく伝えるためにどのような説明の工夫をしているだろうか。またその工夫にはどんな効果があるだろうか。

- ・段落相互の関係を考えさせる。
(問いと答え、対比、まとめ など)

○書くことにおける学習との関連付けを図る。

- ・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成させる。

2 無解答率が高かった問題

大問7(正答率74.8%・無解答率11.0%)

アンケート結果をもとに、条件に従って180字以内の作文を書く問題

- ▲書こうとすることの中心を明確にして文章を書いたり、自分の考えが明確になるように、具体的に文章を書いたりする力が身に付いていない。

指導の改善

○学級の友達に対し、自分の考えを理由とともにわかりやすく伝えるためには、どのような文章の書き方をすればよいかを考えるような学習を仕組む。

(例)友達の書いた文章には考えを伝えるためにどんな工夫があるだろうか。友達の文章を参考に自分の文章を見直そう。

- ・「初め」に自分の考えの中心を書く
- ・「中」で理由とそれに関する具体例を書く
- ・「終わり」にもう一度自分の考えを書く など